

テレビ朝日「報道発ドキュメンタリ宣言」に 武田敏也病院長が出演しました



テレビ取材時の模様

報道発ドキュメンタリ宣言 ～海外に学べ！医療ツーリズム～

放送内容（抜粋）

医療ツーリズムとは「医療を受ける目的で海外に渡航すること」です。世界50ヶ国で実施されており、今、急成長の市場として注目されています。番組では日本で医療ツーリズムを実現しようと立ち上がった1人の医師に密着。

日本を代表する観光地、京都。ここで1人の医師が動き始めました。武田敏也さん。彼が見つめるのは外国人観光客。武田さんには大きな夢があります。

（武田敏也病院長が平安神宮、八坂神社、祇園を歩きながら、外国人旅行者を見つけると）

「やっぱり多いですね。時期がどういう時期でも来られるので。外国人の方が来られて観光と医療を結び付けられるのではないかなと感じています。」

武田敏也病院長の大きな夢は、京都に来る外国人患者を、自分の病院に受け入れること。夢の実現に向けて武田さんはある国へと旅立ちました。

（中略）

武田敏也病院長がタイのヤンヒー病院、バムルンラード病院、バンコク病院を視察。そこで外国人を惹きつける演出、豪華な設備と医療体制、優秀な医師を集めるノウハウ、3つの医療ツーリズムのヒントを得ます。

(中略)

タイから帰った武田病院長。病院長が目指すのは豪華さではありません。

「日本の文化や医療に頼る考え方は（タイとは）違うので、私たちのあるべきマインドでやっていきたいなと思っています」

自らの強みを活かした医療ツーリズム。これこそが武田病院長が目指したカタチです。

その強みとは血液透析センター。人工透析機40台を揃えています。外国人が安心して京都観光できるのをお手伝いしたい。

日本屈指の観光地、京都。そこにある病院だからこそ、外国人を受け入れる責任がある。

「僕たちがやろうとしているのは、（京都に）観光に来て、その間に透析医療ができるという受け皿が我々は担いとしてできるのではないかと。」

武田病院長は職員を前に宣言をしました。

「世界水準の病院評価、JCIの認証を受ける。日本だけでなく、世界の病院として第三者の評価を受け入れ、受かるかどうかジャッジしてもらいます。英語、中国語、韓国語に表記を変えなければならない。」

武田病院長が目指す夢のカタチ。それは“和の心遣い”の医療ツーリズム。

「日本のもてなしの気持ち、ホスピタリティという言葉を使わせていただくなら、（日本に）来ていただいて、観光していただいて、治療していただいて、できることからやっていけるのかなと思っています。」

(BSデジタル) BS朝日 2011/1/25 3:00~
(地上波: 関東圏のみ) テレビ朝日 2011/1/22 17:00~